



いずみ野

令和元年9月27日発行
発行責任者 校長 松藤 朋治

「みんなでやるのが一番いい。」

校長 松藤 朋治

今秋、関東地方を襲った台風15号。その爪痕はいまだに報道されている通りですが、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。皆様のご家族や家財などは、大丈夫だったでしょうか。本校では、雨漏りによる廊下の水浸しを始め、樹木の小枝や落ち葉の散乱など随所に被害が出ました。臨時休校となった9月9日は、交通機関の影響を免れ出勤できた職員で懸命に作業し、何とか翌日子供たちが明るく元気に校門をくぐる状態に復旧させることができました。しかし、本校の子供たちにとって大切なフィールドである田んぼや畑の様子を見に行くと、とりわけ「いずみ野田んぼ」の被害は大きく、その日のうちに何とかなるレベルではありませんでした。

結局、日程を調整して9月13日に破損した「いずみ野田んぼ」のネットや支柱を補修することにしました。当日は多くの保護者やサポーターズの皆様にお手伝いいただき、作業も大変はかどりました。本当にありがとうございました。

後日知ったのですが、田んぼのことが気になったある親子が真っ先に「いずみ野田んぼ」を見に行ったそうです。おそらく「みんなでおいしいお米を作って餅つきを成功させたい。」という思いが、まず田んぼを見に行こうという気持ちを駆り立てたのでしょう。その親子は、現地で目の当たりにした田んぼの被害状況を周囲に伝えました。その結果、他の子供たちも次々に田んぼへ出向くようになったそうです。結果的に、「いずみ野田んぼを守らなければ！」という思いを抱いた多くの方々が、力を合わせて補修に取り組んでくださいました。その様子を見た米作り指導者の 横山 義一 さんは、「こうやって、みんなでやるのが一番いい。」とおっしゃってくださいました。



▲ ネットと支柱の補修が完了。



▲ みんなでネットを縫合して補修。

日本には、農業を営む際に田植えや稲刈りなどの大変な作業を関係者が総出で作業する文化があります。子供たちは、そういった協働意識や連携・協力の大切さも、農業生産活動を通して学んでいるのではないのでしょうか。

本校は、将来持続可能な社会の担い手となる子供たちに、引き続き農業生産活動を通して「生きる力」を培っていきます。今後とも、保護者やサポーターズ、地域の皆様のご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。